

第3回 学校運営協議会：委員からの「本校の良さ」まとめ

1. 学校のビジョンと姿勢

☆明確なグランドデザイン

校長の強い思いが教職員や地域に浸透しており、学校の「目指す姿」が可視化されている。

☆柔軟性とアップデート

既存の枠組みに捉われず、ICTの活用や卒業生の受け入れなど、時代の変化に合わせて関係性を常に更新している。

☆センター的機能の追求

保幼・小・中・高校との連携や切れ目のない支援など、地域におけるハブ（中心）としての役割を自覚している。

2. 地域・外部との深い繋がり

☆「地域のファン」の存在

教職員が異動しても、地域の方々が「学校のファン」として継続的に関わり続けてくれている強い絆がある。

☆開かれた学校づくり

地域資源を積極的に活用しようとする前向きな姿勢がある。

☆卒業生との関係性

卒業生が母校を「安心できる場所」と感じて立ち寄ったり、後輩を支えたりする好循環（先輩・後輩のよい関係）が生まれている。

3. 子供たちと教職員の姿

☆温かい人間関係

教師と子供の距離が近く、一人ひとりが大切にされている。また、教職員同士の連携も密で、チームとしての安心感がある。

☆居場所の創出

子供たちが「学校にいてよかった」と思える環境が出来ており、それが地域の中での居場所づくりにも繋がっている。

☆相手を思いやる力

多様な価値観を受け入れ、相手の気持ちを考えて行動しようとする力が育っている。